

平成 28 年度自己評価シート(中間評価)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋光子	金・定・通	金・分
----	----	-----	--------	------	------	-------	-----

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 授業を変える。					
オーセンティックな学び(深い学び), 聴き合う関係づくり, ジャンプ課題を設定した授業を実践し, 学びの質の高い授業づくりを推進する。	生徒による授業評価 (2回/年の平均値)	B	生徒による授業評価は全科目で 88.8%の生徒が肯定的な回答	教務各教科	
	教師による授業評価 (2回/年の平均値)	B	教師による授業評価において 90%の教師が肯定的な回答をしている。	教務各教科	

A : 計画はととも順調に進んでいる。 B : 計画は概ね順調に進んでいる。
 C : 計画はあまり順調に進んでいない。 D : 計画はまったく順調に進んでいない。(以下同様)

【評価結果の分析】

- 生徒による授業評価アンケートでは, どの質問に対しても肯定的な回答が 80%を越えており, 授業において高い満足度を持っていると考えられる。
- 教師による授業評価アンケートでも肯定的な回答が非常に多い。「生徒の理解が深まるように, 授業において具体的改善に努めている」ではすべての教員が肯定的な回答をしている。

【今後の改善方策】

- 「学びの質の高い授業づくり」という学校経営目標を達成するために, コの字型の机配置やグループ学習の工夫等の取組を更に徹底していくとともに, 校内研修を充実させていく。
- 教員の授業研究を組織的・計画的に推進していくことで, さらに学びの質の高い授業をめざす。

2 保護者や地域から信頼を得る。					
奉仕活動, 学校行事等へ意欲的に参加し, 周囲の人とのコミュニケーションを大切にする生徒を育成する。	服装違反の指導を受けていない生徒の割合 (1学期)	A	服装違反で指導を受けていない生徒は 100%	学年生徒指導進路指導	
	参加生徒による達成感度 (関係行事終了後のアンケート結果平均)	—	年度末での評価	学年生徒指導(生徒会)	

【評価結果の分析】

- 服装違反指導の一人当たりの回数は0回となっており, 昨年に続き生徒の意識改革が進んでいる。

[服装違反指導0回の生徒の割合]

	1 学年	2 学年	3 学年	全体
平成 28 年度	100%	100%	100%	100%
平成 27 年度	81%	55%	81%	72%

【今後の改善方策】

○服装違反の基本的な指導方針を全教職員で再確認し、日常的に細かな指導を行い、生徒の意識を高い状態に保ち続ける。また、校外においてもマナーを守った服装の着用ができるよう。学校朝礼等で啓発を行う。

【評価結果の分析】

○遅刻の状況は、昨年度と比較して大幅に改善された。特定の生徒が繰り返して遅刻をする傾向がある。第2学年では、遅刻の回数は昨年度より少ないが、遅刻0回の生徒のクラスの人数に対する割合が低下している。

[遅刻0回の生徒の割合]

	1 学年	2 学年	3 学年	全体
平成 28 年度	96%	88%	79%	86%
平成 27 年度	89%	38%	78%	68%
平成 26 年度	52%	50%	38%	47%

【今後の改善方策】

○遅刻、服装違反の基本的な指導方針を全教職員で再確認し、日常的に細かな指導を行う。
○学校朝礼等で遅刻・服装違反の件数を周知し、啓発を行う。

3 教師の自律性・同僚性を育てる。				
積極的に授業観察を行い、学び合う同僚性のある教師集団を創造する。	教員の授業公開の回数(年2回以上)	B	1回以上、授業公開した教員の割合は80%	教務各学年
	異校種の授業観察の回数(年3回以上)	B	異校種の授業観察を1回実施	教務各学年

【評価結果の分析】

○これまでに、次のとおり、校内研究授業、研究協議会及び外部講師による研修会を実施した。その結果、教職員の授業力が向上し、生徒の主体的な学習活動が促進され、生徒の進路実績についても、昨年度より向上することが見込めるようになった。

校内研究授業	12 回
外部講師による研修会	2 回

【今後の改善方策】

○「学びの質の高い授業づくり」という学校経営目標を達成するために、研究授業を通じて、生徒の主体的な学びを促進する授業づくりを推進していく。
○異校種の授業観察とともに、他の高校への授業研究にも積極的に参加をして授業の質を高める。

平成28年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋光子	金・定・通	◎・分
----	----	-----	--------	------	------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 学校経営目標「授業を変える」について

- ・生徒による授業評価 88.8%が肯定的な評価
- ・教師による授業評価 90.0%が肯定的な評価

次の取組(主体的な学びグの実践)を推進した結果、教室にいるすべての生徒が意欲的な授業に取り組むようになり、高い評価となった。

- オーセンティックな学び(深い学び)を実現するために、授業において、生徒同士が共に学ぶ関係づくりとともに教師の発問の仕方の工夫を進めた。
- 生徒が主体的に学ぶ授業づくりを推進するために、コの字型の机配置やグループでの学習活動や自分が理解したことを他者に説明する活動を積極的に取り入れた。

(2) 学校経営目標「保護者や地域から信頼を得る」について

- ・服装違反の指導を受けていない生徒の割合 100.0% (前年は72.0%)
- ・遅刻0回の生徒の割合 86.0% (前年は68.0%)

次の取組を推進した結果、服装違反の生徒や遅刻回数の減少になった。

- 朝のSHRでは、担任だけではなく、学年団全員の教職員が教室に行き生徒の指導を昨年度に引き続き継続して行った。

(3) 学校経営目標「教師の自律性・同僚性を育てる」について

- ・1回以上授業公開をした教員 80.0%
- ・異校種の授業観察 1回

次の取組を推進した結果、学び合う同僚性のある教師集団になった。

- 教科の枠を超えた研究授業及び協議を時間割に位置付けて計画的に実施した。
- 研究授業では教師の言動ではなく、生徒の学ぶ姿に注目して観察し、事後の研究協議を実施した。

2 今後の改善方策

- 「学びの質の高い授業づくり」という学校経営目標を達成するために、学習者基点の学びを作っていく意識を高め、教師の発問の仕方、机配置、グループにおける協議のスキルの指導の取組を更に徹底していく。
- 遅刻、服装違反をした生徒には、自己指導力の育成を支援する姿勢で、全教職員が共通認識のもと、指導に当たる。
- 異校種の授業観察を通して、小・中学校における指導を、高等学校でも継続して指導をしていく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入)

- 生徒が主体となる学びの変革については、高い評価を得た。今後も研究・実践を継続し、学力の向上と生徒の希望する進路の実現に向けて指導を充実させるとともに、その成果を地域に情報発信していく。
- 個に応じたきめ細かい指導を継続し、学校活性化に向けての取組をさらに進めていく。
- 学校内だけでなく、登下校時においても本校生徒としての自覚と責任を持って行動できるよう指導の充実を図る。

様式 7

平成 28 年度学校関係者評価シート(中間評価まとめ) 平成 28 年 10 月 日

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋 光子	金・定・通	分
評価項目	評価	理 由 ・ 意 見					
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績に基づいて設定させた目標, 指標となっており, 常に向上している。 ・簡潔で分かりやすい。生徒が授業の主体となっている。質の高い授業づくりが大切。 ・昨年度から授業を変えてきたことに生徒が肯定的。地域からの評価があればなおよい。今後の効果に期待したい。 ・100%の達成を繰り返していることでルーティン化している。今後, 目標等を変更する必要がある。 					
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が適切。毎年の成果がうかがえる。 ・授業のさらなる充実を望む。 ・行事实施後のアンケートは年度末評価が適切かどうか文書だけでは判断できない。 					
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行動目標, 達成目標はプロセスを大切にして, 一人一人に注目し生徒同士の関わりができています。 ・地域の行事において, 生徒の活動がアピールできています。 ・朝の SHR で一日の目標をはっきりと生徒に示している。また, 授業について生徒の肯定的回答が多い。 ・遅刻, 服装違反が減少していてよい。 ・校外における生徒の指導を充実させて欲しい。 					
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導により, 一人一人の生徒に目が行き届き, 重層的な評価ができています。 ・生徒の状況は非常によい。特に 3 年生が素晴らしい。 ・適切に評価結果の分析が行われている。 ・生徒同士で教え合う関係ができていたことは素晴らしい。 ・教師, 生徒による評価があまり変わっていないことの分析が必要。 					
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの質の高い授業が実施できている。学び合える教師集団づくりの更なる充実を望む。 ・常に目標を確認することで, フィードバックが効果的に作用している。 ・日常的に細かい指導ができています。今後も生徒への声掛けを大切にして欲しい。 ・生徒の前向きな行動変容についての指標も必要。 ・前半の異校種の授業観察が少ない。 					
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルが順調に機能しており, 全校を挙げての指導体制ができていて, すばらしい成果が上がっている。 ・個に応じたきめ細かい指導を継続し, 学校活性化に向けての取組をさらに進めて欲しい。 ・主体的な学びによって生徒の向上した様子が PR できると, もっと学校のアピールにつながる。 ・卒業後の進路が安心できるよう, 更なる情報提供が必要。 					